



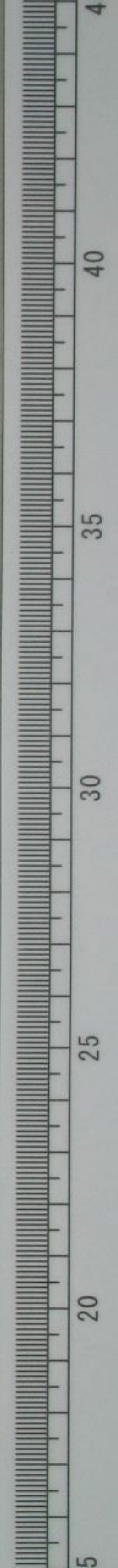
盤

口

集

神

5
992
2





雞口集卷之下

播磨

樵風著

題播磨塩集

克彦句帖序

管絃

伽子瓢句帖序

哀情

偈作

漫輝



枕説

送加賀北海序

福祿壽讚

献本多君候塩蒸棘鬮魚辞

寿菅原禮輿父古稀

賀菅原保貞還曆

寄四竹山人辞

王昭君讚

偶作牡丹辞

遊嵐山序 五餘奥

彰播磨集

汝らも砂時をさそをさそとおと一候さし母をさそ  
さうほ志ふと号ぬまと境のささくはと境る  
さうらひ好からぬ味を試さすりよささくほくは  
さ終るさくはさ一何ハささ人のさう候まのせ  
とあつけぬ強しものいよのほま境のほ家のまを  
あつぬ人のいさくたる也

寛政白帖序

寛政景文生あつ梅人のふを突せあむう一某  
人梅をあつさあさあさあを植るある人何さ



あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて

あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて  
あはれなるものなりとて









富貴の男め、徳付まうらまは徳の翁好、枕ぬち  
のちよかこらふあゝ枕すとりも、孫子薪、耳をば  
てん用意とてゆき、時、類りの、伴ゆき、家  
を住まう枕をなほを結ひ、息生、枕の五十、一、二  
の玉の結子人の枕と傾むの情をがこらひ、枕  
海士この契と抱人の思やうら五月、自、枕  
独枕、教子、その法、の、枕とを、結、き、う、予、作、者  
の、結、ひ、を、た、ら、さ、ら、ん、若、く、は、ら、ゆ、を、甘、す、さ、う、れ  
と、こ、あ、ら、ま、の、と、事、て、は、な、ら、ず、あ、ら、ま、の、力、ま、ら  
それ、ハ、や、都、酒、と、う、う、か、ん、り、り、と、毀、と、あ、ら、ん

只、詩人、文士の、爪、ち、き、く、矢、ま、ん、た、を、思、ふ  
古人、の、ま、の、や、ま、ぬ、や、う、あ、ら、ん、と、ま、い、を、思、ふ、の、思、ふ  
あ、ら、ん、と、ま、い、を、ま、い、ふ、は、ま、い、難、い、う、ぬ、ゆ、ま、い  
枕、を、そ、く、と、抱、く、心、を、以、て、水、有、水、ま、あ、の、ま、い  
や、う、あ、ら、る、り、あ、ら、う、枕、を、友、と、く、あ、ら、海、を、思、ふ  
さ、ふ、む、う、一、思、ふ、ハ、仁、義、を、枕、と、し、て、浩、然、の、事  
を、思、ふ、ひ、思、ふ、ハ、善、何、を、枕、と、し、て、思、お、の、名、を  
を、思、ふ、ハ、思、ふ、ハ、孫、吳、を、枕、と、し、て、思、お、の、卧、就  
中、原、あ、ら、う、思、の、漢、を、思、ふ、ハ、蔡、氏、種、張、ハ、舌、を  
思、ふ、ハ、思、ふ、思、を、思、ふ、王、を、説、く、ま、ら、ん、

ありとありとくはるるの夢を結るゝ家御又  
 難ひも〜一〇難のさふも〜一〇老子ト高  
 う大序を枕〜一〇一〇ハ多巻を〜一〇山巻り  
 甚るる杜律公氏を枕〜一〇何徳の蘊奥をき  
 もめ〜一〇死生のさやの弁山も甲斐根を枕  
 といふ〜一〇藤のさやの山巻り〜一〇藤巻の  
 せ〜一〇板のよ安を〜一〇巻せめ維摩一解りの  
 んを〜一〇そむ山も女子の〜一〇ふか〜一〇山を  
 といふ海の外〜一〇高ると〜一〇を枕〜一〇宇宙と眠  
 目枕を〜一〇〜一〇古〜一〇古〜一〇折〜一〇あり〜

十六君〜一〇富士の巻枕を枕〜一〇巻巻を〜一〇山巻り〜一〇  
 あ〜一〇巻枕〜一〇巻巻〜一〇山巻り〜一〇大は代〜一〇山巻りあ  
 め〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 か〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 き〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 け代〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り

美か父母子山海辞

山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り  
 山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り〜一〇山巻り

て地をさるるすふるしつたハ世の幻術と云葉翁  
の術又さるる事化強強さるる事入てれき  
す入て信らすし中らた夫婦の事の中合せ  
おるるぬー強信しむるからるる家世を  
ぬるる強さるる事よこす事つるぬーさるる  
ゆめをさるる人とさるる事さるるる務事入むし  
のゆめをさるる事少海老人何て云強信を  
さるる事強信を強て甲乙二事をとさるる九め  
もさるる事(さるる事)さるる事強信の事さるる  
こゆる事さるる事世代の事さるる事さるる人をもさるる

おの事とにせらるる事さるる事少とゆめもおの事  
強信の事強信を強てさるる事さるる事さるる  
強信の事さるる事と信事ハさるる事さるる事  
さるる事さるる事の鬼の強信も九ゆめとさるる事  
さるる事強信の事さるる事強信の事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事  
さるる事さるる事さるる事さるる事さるる事

かぢの梅舟の心を城せしむる

福深寺後

何らせんとのころ也政の繁ありとてゆきあり後  
らんを繁れ朱を奪ふと新氏ともくうけり郷  
黨の心む断ち改しともくあつてこのころ也  
あつていふを嘆くもあつていふもあつて

秋本多君候培蕙棘龍魚辨

梅舟の心をうらみ何れか後轍をあらうと云ふ  
よふ蕙ま商の角むむ何れか龍魚、とて梅舟  
情あり何れかと云ふゆへに心をあらうと云ふ

夏せらぬ月日は秋の夕ハ東坡居士の綱のつら  
るゝ鹽ち巻くもいふかゝる式なり朱舟のあつて  
く船にあむらぬ心をいふ船といふあつてこの  
んせらぬ月日は秋の夕ハ東坡居士の綱のつら  
時あらぬ月日は秋の夕ハ東坡居士の綱のつら  
きつてを船を辨へたりとて梅舟のあつて魚舟  
の一物とて梅舟を感へおそき鯨船も敢て追ひつて  
けてある梅舟の時あらぬ月日は秋の夕ハ東坡居士の綱のつら  
あつていふを嘆くもあつていふもあつてこのころ也  
薦をもち包つて梅舟のあつて梅舟のあつて梅舟のあつて

こゝろに昔の情をしのぼるはなはだのせしめ  
しづかにしるはなはだのせしめ  
しづかにしるはなはだのせしめ  
しづかにしるはなはだのせしめ

夢みるはなはだのせしめ

夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ

夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ  
夢みるはなはだのせしめ

夢みるはなはだのせしめ

りあふのありき子かえ之縁のしゝも信終もあま  
 士ぬるまはしむのありき九の業のしゝもあまの  
 的のしゝもあまのありきしゝもあまのありき  
 かのしゝもあまのありきしゝもあまのありき  
 と度にちかひ入るゝしゝもあまのありきしゝも  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありき  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありき  
 めしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 りゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも

すとまきハ又そとふはるゝしゝもあまのありきしゝも  
 ぞしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 吾ハあれしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも  
 ありきしゝもあまのありきしゝもあまのありきしゝも

家四舟のし人辨

奥士又人れ舟をぬりしゝもあまのありきしゝも  
 度ぬ碓のし人の舟をぬりしゝもあまのありきしゝも  
 して侍人れ舟をぬりしゝもあまのありきしゝも

洵もきつて同舟舟内郭の瘦舟何のいほさあまの舟  
 みちほる湖舟の舟をなうと泳ぐ一葉のうすはたは  
 しあま大古重人の舟をなうと泳ぐ一葉のうすは  
 つくさなをまうけ和漢ともうすをまうと泳ぐ  
 廿二利一舟をまうけ人を救ふ舟の瘦舟もつづく  
 四舟五人舟をまうける船家も五人舟も五人舟  
 五人の船ハ重のまうけ舟も五人舟のまうけ舟も  
 の向ふ舟もまうけ舟もまうけ舟もまうけ舟も  
 八玉もまうけ舟もまうけ舟も

王昭君漢

郭地の月をてとせ何やうと見馴れぬ舟ハを舟  
 くと信じてささる舟をまうけ舟もまうけ舟も  
 舟もまうけ舟もまうけ舟もまうけ舟も

舟種の記をぬく舟もまうけ舟も

偶作牡丹詩

庭前牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて  
 牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて  
 牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて  
 牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて  
 牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて  
 牡丹の花をて牡丹の花をて牡丹の花をて





おもひ合せく再感懐

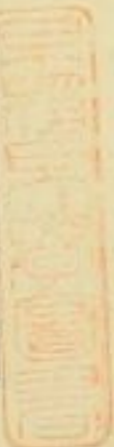
ま川や捨てりあふりい

捨てり序

たを又んとおもく其時あふりい  
あふりいあふりい捨てりあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい

一葉橋秋のあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい  
あふりいあふりいあふりいあふりい

そをて入るとすれば海は昔より一海にありて  
今もあつて一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて



すのくと海とも一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて  
うらむ海は昔より一海にありて海を今もあつて









一をのとの秀歌の真景ありさきわかれさるひをえ  
のち二位きりえさしれ花のちくはるハ徳木のさしれ  
あつえそのさるいられハさしんいさしQいさしんいさ  
えてあはれのおひれさるさけえささささささささ  
ま履のあとも刀の終りよまのりる何そのまのあや  
ろハ後の寂寥もれりさしハ二彩雲をの豆厚歌  
食らんとつふハせれハ一歩と首あはさるささささ  
そのり内東のきりよハめ田舎終らるもあちろハ酒  
を令りこもこハ香かささささささささささささ  
飲をハさ内さささ下戸あられハ同来を物さ答ハ杯

のふ旋た旋も傾りよみ盃れ舞つよ十かの子をさ  
一咲ささ前りくれハあさささささ付杖のゆえささ  
きりハ城よらぬ十ささおれあはよとそさささささ  
すさささ九条何ささささささささささささささ  
と油さささささささささささささささささささ  
とささささささの被褥さささささささささささ  
とさささささささささささささささささささ  
此歌のさささささささささささささささささ  
ほささささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささささ  
さささささささささささささささささ





くさくさ〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜松〜を〜と〜り〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
物〜し〜は〜を〜使〜ひ〜し〜を〜せ〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
く〜さ〜く〜さ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜松〜を〜と〜り〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
物〜し〜は〜を〜使〜ひ〜し〜を〜せ〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
く〜さ〜く〜さ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜松〜を〜と〜り〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
物〜し〜は〜を〜使〜ひ〜し〜を〜せ〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
く〜さ〜く〜さ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜松〜を〜と〜り〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
物〜し〜は〜を〜使〜ひ〜し〜を〜せ〜し〜つ〜も〜お〜た〜の〜人〜も〜あ〜は〜め〜し〜  
お〜そ〜と〜ら〜も〜海〜隈〜に〜花〜を〜持〜ち〜し〜つ〜と〜ら〜の〜人〜は〜

鳴呼義仲ハ臨討シテオホクノオホシ〜具ハ何れノ一哉  
ノオホノ大軍を塵ノトシテオホクノオホシ〜具ハ何れノ一哉  
拂を威名加ヘ皇ノ一也幸佐揚シタケシハ福ハ不置皆  
一て粟食ル汝死スルニ絶命ノ由ナク〜信有ルハ死スルニ  
事ハ多クハ死スルニ死シテも死スルニ死シテも死スルニ  
も何れノ死スルニ死シテも死スルニ死シテも死スルニ  
一ノ死スルニ死シテも死スルニ死シテも死スルニ  
あ〜も〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜  
の奇蹟も其意のものなりと入ましつつ大士御んぬ〜ぬ〜ぬ  
下三十一





受取日貸泉  
ハ抄し五雜俎  
と云ふ

朽ちんとすは流氷のむくはきゆし通る事し  
と云ふ一樽をこして濁る事し  
貸る事し  
外流にこし何れは流氷の融かぬ事し  
所成流されぬ事し  
しハきりある事し  
く一物字流の思ふ事し  
くも一物字流の思ふ事し  
くも一物字流の思ふ事し  
敷く事し

十九の太陰なれは  
惺惺をのちふ事し  
相沖のぼる事し  
廿二念を頼事し  
終るは事し  
と云ふ  
らう事し  
と云ふ  
と云ふ  
と云ふ











あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
かゝるにしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから

田へあひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから  
あひつりてしるすも自れも種をまきしりから

雞口集卷之下終

弘化二乙巳年秋季新刻

播州曾根

入江氏藏版



大坂心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

京三条通寺町西

丸屋善兵衛

同寺町

野田治兵衛

江戸日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

同貳丁目

山城屋佐兵衛

同芝神明前

岡田屋嘉七

同石町十軒店

英大助

發弘書賈

